



本館棟建て替え 通 信

Vol.6

総務管理課



「本館棟建て替え事業」の進捗を、担当の総務管理課職員がレポートします。

基礎躯体の工事が始まりました

掘削工事が終わり、基礎躯体の鉄筋工事が始まっています。高さ約45mの建築資材をつり上げるクレーンが活躍し、足場の間から、ぎっしりと組まれた鉄筋が見え始めました。

8月には、病院管理者（石橋田南町長）が工事現場を視察し、工事関係者に向けて、「工事が安全に進んでいます」とのお礼を伝えました。

また、「現病院が開院した昭和58年は、島根県西部にて水害（豪雨災害）があり、大変な時期を乗り越えて建築が継続されたことに住民は勇気づけられました。工事が進むにつれ、住民と共に完成を日に日に心待ちにしています」と激励されました。



建て替え後の災害対策 ～ライフラインのバックアップ～

建て替え後の災害対策について、

災害時に病院機能を維持するためのライフラインのバックアップ機能をご紹介します。

①給水

災害時に水道管の供給が止まつた場合でも必要な生活用水を確保できるように敷地内の井戸水を雜用水として使用します。また、南側と東側の二箇所から水道を引き込むことで一方が破断した場合にも受水槽に供給できるようにしています。



合でも、お湯の供給ができるよう A重油を燃料とするボイラー設備を備えています。

③排水

一系統の下水ルートを確保し、一系統が破断しても、切り替えることで下水の機能を確保します。

また、公共下水が破断した場合に備え、地下ピット部に非常用排水貯留槽を設置します。

④非常用電源

停電時も必要な医療を提供できるように非常用発電機（1,000kVA）を設置し、電力供給が可能となります。非常用発電に必要な燃料は、(5)のA重油を使用します。

⑤A重油地下埋設タンク

18,000t (A重油) の地下埋設タンクを設置します。72時間の発電に必要な燃料を供給することができます。

②給湯
厨房や入浴に必要な給湯について、建て替え後はエコキュートを採用しています。災害時にエコキュートが使用できなくなつた場合でも、お湯の供給ができるよう A重油を燃料とするボイラー設備を備えています。

